とことん知りたい！台湾！

こんにちは、台熊友好会（たいゆうゆうこうかい）です。四回目の今回は、台湾での買い物で気付くこと、そして日本でもいよいよ始まるインボイス制度にちなんで、台湾の「統一発票」についてお話しさせて頂きます。

TAIYUU 台熊友好会

お得が大好き台湾人

「買一送一（マイ イー ソン イー）」台湾で使われる漢字（繁体字）は、日本人には馴染み深く、ある程度は意味が通じます。一個買ったら一個おまけがついてくる。一個の価格が、実質半額。アメリカでも “Buy one, get one Free” は、時々見かけますが、日本ではあまりお目にかからない気がします。

この「買一送一」台湾ではよく見かけます。いつもは静かなスターバックスも、この日ばかりは大賑わい。専用駐車場が２台しかなかったため、近隣をぐるぐる旋回し、やっとのことで見つけた駐車スペースに車を停め、行ってみたら長蛇の列。私の中では「買一送一だったかぁ」とお店には申し訳ないですが、落胆する瞬間でした。ちなみに「買十送一」の場合は、十個買うと一個おまけなので、買い物の際は、十一個品物を手にして下さいね。慣れないと「あれ？これで正しいよね」とちょっと不安になるので。

他にも台湾は、値引きの表示も少し変わっています。「折（ジョエ）」という字を使うのですが、「7 折」となっていれば「30%オフ」のこと。「3 折」となっていれば「70%オフ」のこと。書いてある数字が、オフ率を表すことに慣れている場合、少々戸惑ってしまうかもしれません。

侮るなかれ「統一発票（トン イー ファ ピャオ）」

さて、買い物にはつきものの会計。そこで登場するのが「統一発票」。日本も10月1日からインボイス制度が始まりますが、実は台湾では早くからインボイス制度が導入されています。消費税にあたる営業税（5%）の課税事業者が発行する証憑が、それに当たります。コンビニでもらうレシートや公共料金の領収書も全て「統一発票」です。この「統一発票」は、課税事業者か否かにより三連式や二連式という違いはあるものの、全て財務省指定業者から購入せねばならず、連番が付されているのが特徴です。

この連番が付された「統一発票」を「仕入税額控除」並びに経費として扱うためには、「統一編號（トン イー ビェン ハオ）」が非常に重要になってきます。「統一編號」とは、8 桁の数字からなる法人番号です。日本の場合、法人番号 13 桁（法人番号がない場合、13 桁のランダムな数字）の前に T を付けた番号が「適格事業者番号」のようですが、事業者を特定させるための番号という意味では同じになります。ただここからが大きな違いです。「統一発票」を受取る側も、必ず自らの「統一編號」をレシート型なら印字、手書き領収書の場合は、加筆してもらわなければならないのです。レジでは決まって「要袋子嗎（ヤオ ダイ ツ マ）？」と、レジ袋が必要か否かを聞かれると共に「要統編嗎（ヤオ トンビェン マ）？」と、「統一編號」の印字が必要か否か、聞かれます。台湾で働いていた頃には、8 桁の番号を記載した手帳は、買い物のお供でした。

さらに交通費等を経費として扱うためには、もう一手間あります。購入の領収書「統一発票」はもちろん、チケットの半券も必須になります。日本の新幹線のチケットは、改札出口で機械に回収されてしまうため（台湾の新幹線では、半券は戻ってきます）、窓口通路で、鋏を入れてもらった物を持ち帰っていました。

台湾ではこの「統一発票」が宝くじになっており、2 か月に一度（奇数月の 25 日）抽選が行われ、「特別賞」には日本円で約 4,000 万円にも上る高額な当選金が用意されているのは、ご存知の方もいらっしゃるかと思います。実はこれ、脱税を防止する意図が込められており、その歴史は 1950 年 12 月 12 日とかなり古いのです。このとき同時に、インボイス制度も導入されました。1956 年から 1965 年までは財源不足により、宝くじが中止された時期もあったといいますが、その後復活し今に至っています。営業税の申請も、宝くじと同じく 2 か月に一度（奇数月の 15 日）であり、受取り側の「統一編號」を記載した「統一発票」レシート型は、宝くじ抽選の対象外となります。

2000 年以降は、電子化が推奨されており、財務省が提供している「電子発票整合服務平台」を用いて、企業の電子発票プログラムに連番を付し、この財務省のプラットフォーム内で、発行の受渡しの確認も可能なようです。また個人で受け取る場合、電子レシートをアプリで読み込み管理することにより、先の宝くじの当選も一目でわかるような仕組みになっており、この電子レシートを読み込むアプリの総称を「載具（ザイジュー）」と呼ぶようで、最近ではレジで「載具」の有無を聞かれることも増えたといいます。

妙妙たる台湾のインボイス制度。台湾への見方が少し変わるかもしれませんね。（石橋 妙子）

〈参考文献〉
台湾財政部電子整合服務平台〈https://www.einvoice.nat.gov.tw〉
翁聿煌［2014］「從標語看歷史 統一發票走過一甲子」『自由時報』,〈https://www.ltn.com.tw〉.
高畠久之［2019］「台湾インボイスの電子化」『情報通』Volume No.751, 東京税理士会 .
飯田清和［2015］「台湾における統一発票制度とレシートくじ」『グローバル・タックス・サテライト』Volume No.700, 東京税理士会 .

中国語一言レッスン

「要嗎（ヤオ マ）？/ 不要・不用（ブウヤオ ブウヨン）」

今回は、本文にもちょっと出てきましたが「いる」/「いらない」を学びましょう。「要」には「欲しい」「要求する」「必要とする」という意味があります。ですので「要嗎？」で「いりますか？」となります。但し「要」には、必要性を表すだけでなく「～しなければならない」といった意味もあるので、ちょっと注意が必要です。一方その否定の「不要」は、「いらない」という意味にはなるのですが、禁止や命令を帯びたきつい印象を与えるよう。「いりません、なくて大丈夫」と言いたい場合には「不用」を用いた方が、柔らかい印象となります。「要嗎？」と「不用」是非、使ってみて下さい。

Facebook

TAIYUU_YUKOU
Instagram